

フランス留学到着～初めの2ヶ月

中須賀月香

不安と緊張、楽しみな気持ちと期待を胸に日本を離れ、フランスに到着して早2ヶ月経とうとしています。手続き続きでドタバタしていた日々もようやく落ち着いてきました。このたった2ヶ月の間にも、悔しかったこと、大変だったこと、感動したこと、胸を躍らせたこと、など様々なことがあり刺激的な毎日を送っています。

まず始めは悔しかったことについてです。一番悔しかったのは、自分が伝えたいことを即座に言葉にして伝えられない、思った以上に聞き取れないということです。特に始めの時期は新学期で忙しいため、すごく速いスピードのフランス語で事務手続きが進んでいきます。単語の端々を聞きとって、雰囲気をつかみ、なんとか切り抜けましたが、毎日悔しくて、緊張続きで、着いて1週間は大変でした。帰ってからとりあえず耳を早く慣らそうとフランスのラジオを流し、気づいたら眠りについているという日々でした。

また、大変だったこと驚いたことは、よくも悪くもフランスは適当だということです。学生証を受け取りに行った際には、無いみたいだからまた1週間後に来て、と言われたり、1日中荷物受け取りのために家にいたにも関わらず、来ることなく、不在届が入っていたり、とその他にも日本にいたときには経験しなかったようなことが普通に起こります。初めの頃は、ありえない、信じられないと思えることもありましたが、今では慣れてきて、そういうことも面白いと思えるようになりました。逆に物事がすんなりいくと感動し、日本とのギャップを楽しんでいます。

一方、大学生活は、フランス語で進められる授業を完全に理解し、ノートを完璧にとる段階にはまだ来ていません。毎日の予習・復習は必須です。しかし最近少しずつ聞き取れるようになってきているのを感じ、ゆっくり話してくださる先生の授業はメモをすることができるようになってきました。とっている授業はフランス語の文法の授業、文化・歴史の授業、翻訳の授業などです。外国からの留学生や現地の学生は積極性が高く、勉強に対する意欲も高く、そのような環境の中で学べるのが嬉しいです。私はよく図書館を利用するのですが、日本だとテスト前にならないと図書館の席を探すのに苦労することは無いのですが、フランスでは常日頃席を探し2階から4階をさまよいます。4階まで行かないと席がないことがしょっちゅうです。また、授業や勉強以外で友達とのやりとりにおいては、省略語やスラングが多く聞き返すことが多いです。自分が使えるように固い文章で使う語彙だけでなく、そういった語彙も増やしていきたいです。

ここまで、大変だったことや悔しかったことなどを書いてきましたが、もちろん感動したこと、胸躍るようなこともたくさんあります。世界遺産にも指定されているリヨンの旧市街の美しさ、ブルーランジュリーで買って食べるパンのおいしさ、有名パティスリー、ショコラティエのケーキ、チョコレート、郷土料理ブションの味には感動しました。どこを撮っても絵になる町並みは本当に素敵です。食の街と言われるだけあり、本当に食べ物も

美味しいです。また、日曜朝に開かれるマルシェに行ったり、中央市場に行って新鮮な野菜やお肉を買ったりするときは本当にわくわくします。何種類もあるチーズを見たり、肉になる前の状態で皮を纏ったままのうさぎや鶏を見たり、新鮮な野菜や果物が大量に売っているのを見たりすることは日本ではありません。挨拶をし、会話をしながら買い、挨拶で締める、この流れが当たり前ができるようになっていたと感じた瞬間、ふとこちらでの日常に溶け込みつつあると感じ嬉しくなりました。

聞いたり、話したりすることに進歩を感じ喜んで、まだまだな場面に直面し悔しくなることの繰り返しです。1年間という限られた時間の中でしたいことやれることは実行し、勉強机の前に貼っている目標を胸に、フランスでの生活にどっぷりつかって、大学の授業だけでなく様々なところから学んでいこうと思います。

市場の様子

